

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400111		
法人名	株式会社ウェルエージング		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	栃木県佐野市町谷町59-1		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みかも山の南に位置しています。かたくりの里も近いので空気が澄んでいます。併設に小規模多機能型施設があり、レクリエーションや誕生日会を合同で行っています。常に交流をしていましたが、コロナ対策の為、交流は、控えさせていただいています。また、介護度の重い方と軽度の方が一緒に生活しており行動や表情などを観察しながら入居者様の思いに応じられるように寄り添い、思いやりある心を大切にしています。軽度の方には、趣味などが出来るように配慮しています。全員がゆったりと安心して過ごせるように環境作りを目指しています。また、コロナ対策、感染対策に力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市南東部の栃木市との境界近くに位置し、付近には大規模公園やハーブ園などがあり自然が身近に感じられる環境にある。現在は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中断しているが、併設されている小規模多機能型居宅介護事業所とは季節の行事やレクリエーションを合同で実施するなど交流が図られている。職員は、家庭的な雰囲気を大切にするとともに、法人の理念である「個人個人を尊重したオーダーメイドの介護」を常に念頭に置き支援に当たっている。職員間では、日頃から意見を出し合ったり、相談しながらより良い介護に向けてコミュニケーションを深めている。主治医や訪問看護事業所と連携して、看取りまで実施する体制も構築されている。新型コロナウイルスの対策も、職員、利用者の毎日の検温をはじめ定時的な消毒や換気、パーティションの設置など感染拡大防止に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和2年12月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人を尊重しオーダーメイドの介護理念としてその人らしい生活を送れることを目指しています、という理念を実践に取り組み施設目標も作成しています。	法人理念をいつでも確認できるよう事務室に大きく掲示している。理念に加え、毎月の目標を立てて、それらを念頭に置きながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し運営推進会議や避難訓練には、地域の人に参加して頂いています。	自治会に加入しており、回覧が回ってきたり、自治会の新年会に参加したりしている。今年では中止となったが、事業所の納涼祭には地域の方の参加があり交流を深めている。近所の方が事業所周辺の草刈りをしてくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の研修発表を行い、理解を深めて頂けるように努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の人や家族などから意見や要望などを頂いてサービスの向上に努めています。	3月から書面での会議開催となっているが、それまでは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て、2か月ごとに開催していた。外出先の情報提供などがあり、行事に取り入れるなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	多様なニーズについて対応がわからない時は、市の担当者の方に電話相談しています。	わからないことがあれば、すぐに電話で照会し、アドバイスを受けるなどしている。地域の方から認知症に関する相談があった場合にも市に情報提供するなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、勉強会を行っています。その中で事例を出し話し合ったり、拘束をしないで安全にケアすることも話っています。	身体拘束委員会を3か月ごとに開催しているほか、全体研修も年1回は実施し身体拘束についての理解を深めている。利用者に対する言葉遣いについても、強い口調や命令的にならないよう職員どうしで注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や一方的な介護も虐待につながる危険性があることも職員には、随時指導行っています。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様を通し制度について職員に説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に分かるように説明を行い、疑問点には答え理解を頂いてから契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様等が来所された際や電話連絡した際に施設への要望等聞くようにしています。内容によっては、職員に伝達しサービスに努めています。	利用者からの意見は、日頃の支援の中でよく聞くように心がけている。家族からは、電話連絡の際や来所時などに意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。	事業所だよりを発行するなどして、家族とのコミュニケーションを深め、より意見や要望の出やすい環境づくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り等で職員から意見を聞き会議も定期的に行い職員からの意見や提案を聞いて日々の業務に生かしています。	管理者は、日頃から意見や要望の出やすい雰囲気づくりに努めている。職員も言いたいことは言える環境にあり、消耗品や備品の購入、利用者支援の対応方法などの意見が出され運営に反映させている。年1回程度は、本社及び管理者との個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいと向上心を持って働けるように職員の意見を聞きながら環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会をしたり、研修にも本人の希望を聞いて参加する期間を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の施設長会議や看護師会に出席し情報交換しサービス向上に繋がるように取り組んでいます。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回段階では、必ずご本人様にお会いしお話を聞きながら不安や要望を伺いサービスが利用できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様と面接し介護上で不安や要望を聞く機会を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事に対してサービス内容の説明や利用方法などを話しながらご本人様とご家族様が安心して施設利用ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がテーブルを拭こうとすると入居者様は、アルコール消毒の入れ物を持ち一緒にいき共に行えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや様子など御家族様が来所された際にお話しご家族様との関わりを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知り合いの方がいつでも気軽に来所されるように配慮しています。	現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため家族や知人との面会は中止となっているが、電話の取次ぎや手紙のやり取りなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考えお互いが笑顔で過ごせています。時には職員が間に入って会話のきっかけを作っています。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援終了後も必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様とお話する時間を作り希望、意向などを聞くようにしています。	利用者全員が意思疎通が可能であり、日頃の会話を通じて思いや意向をくみ取るよう努めている。特に入浴時等1対1での支援時における何気ない言葉を大事にするとともに、表情やしぐさなどをよく観察するようにしている。それらをノートに記入し全員が共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントと利用が開始してから利用者のご家族様との会話などを通して考えるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れは決まっているがその時によっては庭に出て日光浴や併設施設とのレクリエーションに参加しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、面会時や体調の変化時に連絡し報告し計画書の見直しを図っています。	家族からは電話や手紙で意向を確認するとともに、必要に応じて服薬など主治医の意見も取り入れサービス担当者会議で計画を作成している。基本的には6か月ごとの見直しであるが状態が変わればその都度見直しをするなど適切に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの経過記録や日誌や伝達ノート of 情報を共有し介護計画書が適切に見直せるように生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と一緒に外出や外泊をしている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容との交流を通し楽しみのある生活が送れるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を大切にしながら今後のことも相談しながら受診の支援も希望により行っています。	これまでの主治医をかかりつけ医としているが、訪問診療を受けている利用者もいる。家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添っている。家族付き添いの場合は現在の状況を用紙に書いて渡し、受診後も家族から聞き取りをするなど情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に利用者の体調や変化などが看護師に伝わるようにしています。必要時には、受診介助も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院の際には、利用時の状況報告を行い病院からは、退院のサマリーにて情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望され看取り方針の説明後同意にて方針を共有し状況変化がみられた場合に同意内容の確認を何度も話し合いを行っている。	看取りまで希望する家族も多く、状態の変化に応じて話し合いを重ねて対応している。看護師が2名配置されており、主治医や訪問看護事業者と連携しながら看取りまで実施できる体制が構築されている。過去1年半位で7件の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えてマニュアルを用意している。AEDを導入し講習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、水害訓練の実施をしている。近隣の人に参加協力してもらい、火災通報と同時に連絡できるシステムに登録させて頂いています。	年2回、夜間想定も含め、避難・通報訓練を実施している。通常は地域住民の協力もあるが、今年は事業所単独での訓練となっている。緊急連絡網に地域住民の登録をしていただくなど協力が得られる状況にある。水、缶詰等の備蓄もしている。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重し利用者様の立場に立った行動、言葉遣いなどに努めています。	トイレは小声でトイレという言葉を使わずに誘導している。利用者との会話は目の高さを合わせ、呼び方も苗字や名前にさんづけで呼んでいる。個人記録は事務室に保管するなど守秘義務にも配慮している。年1回はグループ全体の接遇研修にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言えるような雰囲気作りを行ったり、言葉では、意思疎通ができない場合には、表情や仕草などから気持ちを理解する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているがその時によって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の訪問理美容者に来てもらい希望者にヘアカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りを手伝って頂いています。	献立は、食事・栄養委員会の職員が利用者の希望も取り入れて作成している。食材は職員が買い出しにいき、調理専門の職員と支援員で調理している。月数回は、団子やホットケーキなどのおやつ作りを取り入れるなど楽しみとなるよう支援している。利用者もお茶配りや後片付けなどをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を経過記録に記載し職員間で連携に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操、毎食後の歯磨きを実施しています。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録からパターンを把握し排泄介助の支援を行っています。声掛けを行いトイレ誘導し羞恥心を傷つけないように支援しています。	トイレでの自立排泄ができるよう、排泄記録からパターンを把握してさりげなく声掛け、定時誘導している。夜間も利用者に合わせ、ポータブルトイレを使用したり誘導するなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な利用者様には、水分を多く摂取したり、1日2回の体操に参加して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定を行ってから入浴して頂いています。	週2回程度の入浴となっている。拒否者には次の日に入浴していただくようにしている。1対1での介助であるが、足が上がらないなど難しい場合は2人で介助する場合もある。入浴剤のほか、季節のゆず湯やしょうぶ湯など楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビをご覧になられてから休まれたり、温かい飲み物を飲んでから個々の生活習慣に合わせて休まれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと薬ファイルを個々に作り薬の内容管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や脳トレをしたりして好きなことを行って頂き支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭で日光浴したり、ドライブに行ったりお弁当持って食べに行っています。	季節のお花見や道の駅への外出を支援していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため自粛している。車の中だけではあるが、唐沢山自然公園までドライブに行ったり、中庭でお茶を飲むなど外気に触れられるよう工夫している。外出に代わり、リズム体操を多く取り入れるなど筋力の維持にも努めている。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお預かり管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話が噛み合わない時は、職員が間に入り話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の花を置き季節感を感じられる場所作りを行っている。	温度は事務室で一括管理し、湿度は職員が加湿器等で快適となるよう管理している。利用者と職員が一緒に作った貼り絵などの作品のほか、季節の花が飾られ居心地よい空間づくりに配慮している。新型コロナウイルス対策についても、消毒や換気、パーティションの工夫など感染拡大防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、テーブルや畳の空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使用していたタンス等を持ってきて頂いています。	洗面台、エアコン、カーテンが備え付けられている。利用者はタンスやテレビなどを持ち込むとともに、家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には、手すりが設置されており安全に配慮しています。		